

生きもの調査等から見えてきた県内農村部の水生生物に関する意見交換会結果概要

日時 2025.2.8(土) AM10時~12時 場所 宇都宮市平石地区市民センター

参加者(敬称略) 水谷・渋谷・高瀬・土居・吉田・藤咲・青山・中荃

意見交換

1, 生きもの調査担当者から見た水生生物の現状やその他の感想

水生生物の現状について

- ・外来生物が増えているように感じる(特にカワリヌマエビ類・バス類・アメリカザリガニ・カラドジョウ等)
- ・県西部や県北部はまだアメリカザリガニが未侵入の地域ある
- ・県南部はヌマガエルの生息域が増えている印象が強い 上三川町・下野市・壬生町あたりまで北上しているようだ
- ・ふな類の生息箇所は年々減少している感がある(県南部は少し見られるが県中部以北ではほぼ見られない)
- ・1か所で見られる種数が少ないところが多い(圃場整備済の直線水路)
- ・2面装工のほうが種は多い傾向

地元組織等について

- ・近年マンネリ化の傾向がみられる(参加役員数の減や参加者の減)
- ・子供の減少に伴い中止組織が増えている
- ・小山市の大多数は継続組織多い(役員も多く参加している)
- ・学校と連携している組織は長年継続している
- ・子供たちはみな参加すると喜んでいる
- ・宇都宮市や日光市の組織はやる気が十分あると感じる
- ・少子・高齢化の波は強くこのままのやり方でよいのかどうか、そろそろ検討すべき時期(個所数・組織の統合・参加者の募集等)

その他の意見

- ・調査結果の集計や活用が図られていない。県として公開してほしい
- ・アドバイザーのガイドライン作成や募集及び研修会等をすべきでは
- ・地元からフナの減少を嘆く声が聴かれた
- ・行政を含めてなぜ生きもの調査をするのかの意識が薄れている
- ・雨で中止にするのは惜しいので組織や学校で「生きもの調査」のPP講演会を実施している(親子になぜ生きもの調査をするかの説明)

2, 県営事業に関する生態系アドバイザーの現状と課題に関して

- ・計画時には意見求められるが、実施時以降は呼ばれない
- ・計画と実施で大幅に変更されていたりしているが、アドバイザーには知らせがない
- ・地元説明会に呼ばれたがアドバイザーの位置付けを勘違いしている
- ・計画時・実施時いずれも担当者が変わるため引継ぎ不足が目立つ

- ・県の担当者の環境配慮に対する知識不足が目立つ。土地連も同様に感じる
 - ・検討委員会が県主体から事務所主体になりその時点から機能しなくなった
 - ・アドバイザーに登録されているが1度も呼ばれない(複数人いる)
 - ・アドバイザーの研修会や意見交換会が必要では
- その他の意見

環境配慮を実施した地区の現況調査をしてはどうか

記録者 中荻

生きもの調査風景

下野市・上三川町 下野下の堰環境保全会（上野会員の地元）



日光市小代地区



栃木市中仕上みどりの里

栃木市荒井地区



当会の生きもの調査アドバイザー活動は平成24年から開始しています。